

こじま ちえ
小島 智恵 議員

道東自動車の開通と 地域振興策や観光について

今年10月29日に「道東自動車道」の全面供用始まると報道された。開通により札幌～帯広間の所要時間は、3時間余りとなる。

こうした利便性向上に伴い、管内の交通機関はもとより十勝川温泉等の観光施設では、行政と一体となり集客対策に励んでいる。本町もこれを契機に地域振興や観光に施策を打つ必要があると考え以下について伺う。

- ①道東道開通を目前にし、具体的な施策や考えについて。
- ②国道38号線沿いの「道の駅」建設については、商工会が断念したと報じられたが、その経緯や今後の見解について。
- ③パークゴルフ発祥の地、安全安心な農産物、モール温泉と施設設備等の資源を融合した観光産業の創出が必要と考えるが見解を伺う。
- ④清水町は、ご当地グルメ「牛玉丼」を開発し、地域振興に成果を挙げている。本町も農産物に付加価値を加え、商品開発や加工、幕別ブランド確立に向け取り組んではどうか。
- ⑤本町出身のスポーツ選手が日本や世界で大活躍されている。地域を元気にするため「スポーツ振興やイベント開催」等取り組んではどうか。

理由としては、38号線沿いに他の町に道の駅等ができたことや、農協独自の直場所が開設され全面的協力が難しくなったこと、収益性が確保されないことによる。

町としては、「道の駅」の、本来の機能に加え、地域経済の活性化に寄与し、民営であること、採算性が確保されるものであることと認識しているもので、これら課題がクリアされない限り、道の駅の設置は難しいものと考えている。

③商品開発やブランド化について、事業者に進事例の紹介、町の補助事業や国の支援制度活用のPR、また、販売のPR活動など、観光物産協会と連携して、でき得る範囲の支援に努めていきたい。

④国の「スポーツコミュニティの形成促進事業」の委託先として、NPO法人幕別札内スポーツクラブが認定された。



写真提供/十勝毎日新聞社

広州アジア大会で2冠達成の福島選手

と、本町のスポーツ振興はもとより、町外からの来場者の増加も見込め、地域活性化に繋がるも期待している。

再質問 ①道の駅試験販売では、なぜ目につかない立地条件の悪い場所を実施したのか伺う。

②本町出身のスポーツ選手が大活躍して、町の認知度が上がっているが、スポーツ合宿の整備について、今後の見解を伺う。

答 ①なかなか出店者が決まらず、短期間中で、ある程度収益性を確保できる所として、公園利用者の利用を見込み場所を決めた。

②大規模な合宿所というのは、費用対効果からいうと非常に難しいと思っている。

町長 ①道東道開通が、本町の新たな観光振興のスタートと位置づけ、観光振興担当の職員を2名配置した。

来年度以降、通過型から体験型、滞在型観光を目指し、関係者との調整を進めグリーン・ツーリズムを取り入れた魅力的な観光ルートを設定し、旅行会社や町内のホテルなどに提案し、道央圏を中心に広く情報発信して、観光振興の取り組みを進めていきたい。